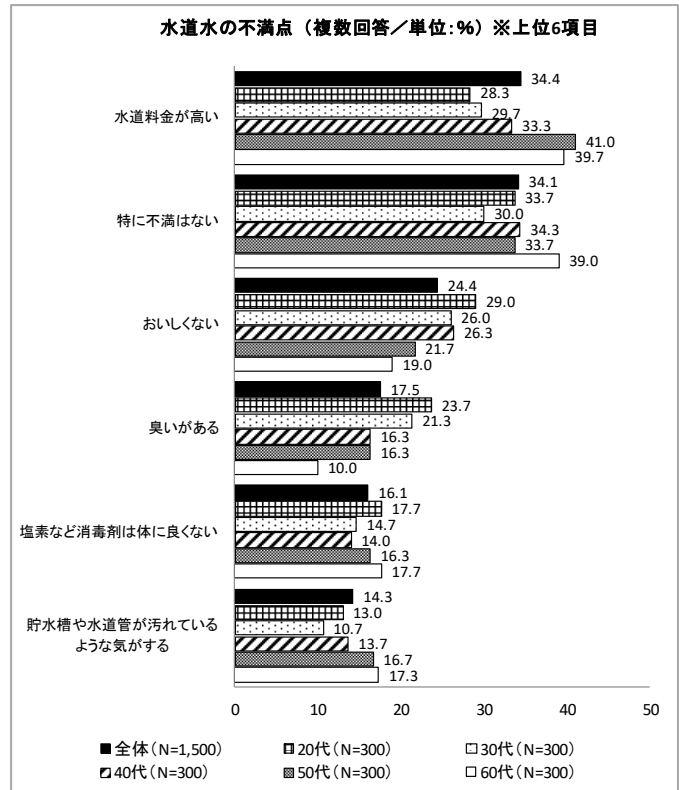


Q.水道水について不満を感じていることは？ (8択+その他+特に不満はない)

◇「水道料金」が1位に。「不満なし」は減少

水道水の評価得点がアップした一方で、水道水への不満については、昨年から2.1ポイント増加した「水道料金が高い」(34.4%)が1位となり、「特に不満はない」(34.1%)は4.8ポイント減で2位に後退。次いで「おいしくない」(24.4%)が3位、「臭いがある」(17.5%)が4位でした。

年代別にみると、「水道料金が高い」は50代、60代の高い年代が多く回答した一方で、「おいしくない」は20代~40代、「臭いがある」は20代、30代と、低い年代の回答が多い傾向が見られました。



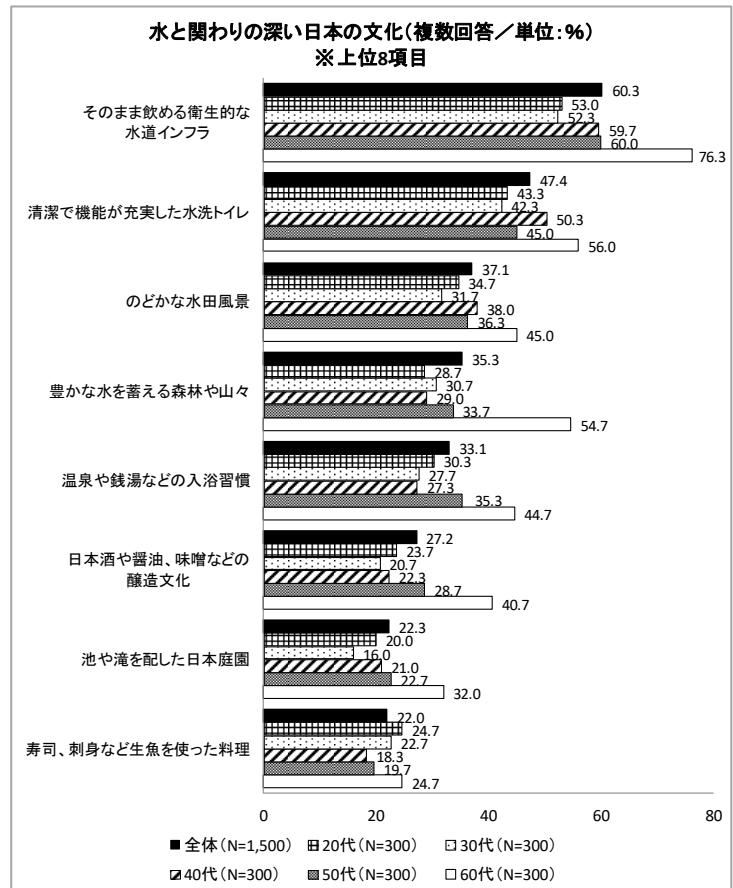
水と生活・文化

Q.水と関わりの深い日本の文化は？ (16択+その他+特になし)

◇「そのまま飲める水道インフラ」が4年連続1位。60代が特に高く、76.5%が回答

「そのまま飲める水道インフラ」が2015年の調査開始以降、4年連続の1位。昨年さらさらポイントを上積み(4.2ポイント増)し、6割超(60.3%)の回答を得ました。

中でも、60代は76.3%と回答率が特に高く、次に高かった50代(60.0%)と16.3ポイント、一番低かった30代(52.3%)とは24.0ポイントと大きく上回り、全体の数値を押し上げる結果となりました。以下は、2位「清潔で機能が充実した水洗トイレ」(47.4%)、3位「のどかな水田風景」(37.1%)、4位「豊かな水を蓄える森林や山々」(35.3%)、5位「温泉や銭湯などの入浴習慣」(33.1%)となり、これらの項目も、60代の数値が高い傾向にありました。

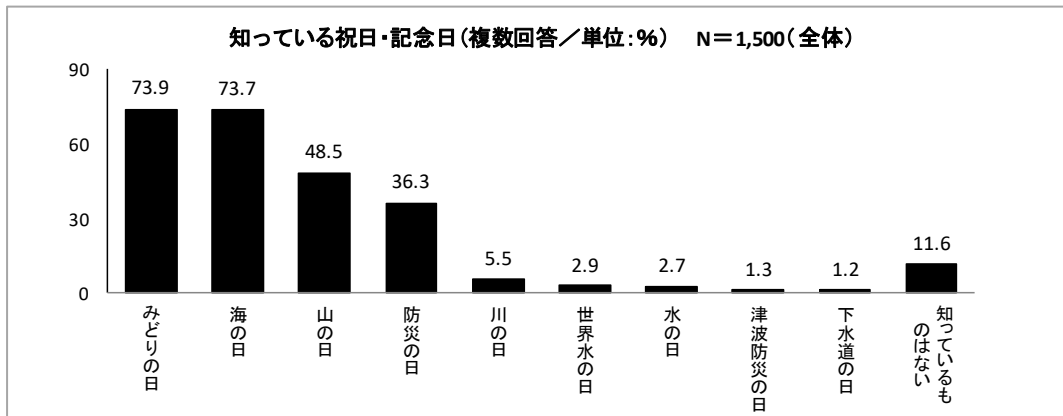


Q.知っている祝日・記念日は？（9択+知っているものはない）

◇「水の日」の認知上がらず2.7%

今回、水や自然にかかわる祝日・記念日の認知について2016年以來の調査を実施しました。

その結果、認知率の高かった上位3項目は「みどりの日（5月4日）」（73.9%）、「海の日（7月第3月曜日）」（73.7%）、「山の日（8月11日）」（48.5%）と、すべて祝日でした。「山の日」の認知は、2016年の時点では36.7%でしたが、施行から3年目の今年は5割近くまでアップしました。祝日ではない記念日では、「防災の日（9月1日）」が36.3%で唯一の2桁認知率だったものの、前回（46.7%）から10.4ポイント減少しました。その他は「水の日（8月1日）」（2.7%）をはじめ、いずれも1桁台でした。毎年「水の日」にあわせて「水にかかわる生活意識調査」（本資料）をリリースしている当センターとしては、この結果を真摯に受け止め、これまで以上に水文化の普及・啓発に取り組んでまいりたいと考えています。



沖大幹先生プロフィール

沖 大幹（おき たいかん）

東京大学国際高等研究所・サステナビリティ学連携研究機構教授
「ミツカン水の文化センター」アドバイザー

1964年東京生まれ。1993年博士（工学、東京大学）、1994年気象予報士。1989年東京大学助手、1995年同講師等を経て2006年より同教授。2016年より国連大学上級副学長、国際連合事務次長補を兼務。専門は水文学（すいもんがく）で、地球規模の水循環と世界の水資源に関する研究。書籍に『水の未来』（岩波新書、2016年）、『水危機 ほんとうの話』（新潮選書、2012年）など。生態学琵琶湖賞、日経地球環境技術賞、日本学士院学術奨励賞など表彰多数。水文学部門で日本人初のアメリカ地球物理学連合（AGU）フェロー（2014年）。



「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年（文化元年）の創業以来、食酢の醸造を社業の中心としてきました。食酢の醸造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものがありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立し、今年で20年目を迎えました。センターでは研究活動、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、市民参加型イベント「発見！水の文化」の実施など、様々な活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業や、一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用頂くことを目的としています。